

# お花畑化プロジェクトの背景

耕作放棄地は、現在の日本の農業の最重要課題です。耕作放棄地が増えることで、生活環境は悪化し、地域は衰退していきます。環境を守るために耕作放棄地に、栽培作業が簡単で緑肥にもなる草花を栽培することで、耕作放棄地を耕作可能な状態で維持でき、地域の景観美化にもなります。

また、様々な花を植えてお花畑を作ることは、ミツバチを始めとする送粉昆虫の餌資源の創成にもなります。近年、ミツバチの不調が伝えられ様々な原因が上げられています。特に問題とされているのは、ミツバチの体力を支える餌資源の不足です。お花畑を作り、資源の回復ができれば、ミツバチの増殖も期待でき、果樹や果菜類に必要な送粉者として園芸農家への貢献度も大きくなります。

このような背景を受けて、本プロジェクトでは『農地の再生』、『生態系の保全』、『景観の美化』、『生物多様性の促進』、『蜜源植物の増殖』、『養蜂及び農業の振興』を目標に掲げ活動を行っています。



**生態系の保全**  
豊かな環境作りが可能になれば、生物多様性が促進され、生態系の保全も期待できます。



**農地の再生**  
疲弊した土地を回復させ、草本類を主体とすることで農地への再転換も容易に。



**蜜源植物の増殖**  
近年ミツバチの体力を支える餌資源が不足していることから、お花畑を作ることで資源の回復も期待できます。



**景観の美化**  
耕作放棄地を野生化から守り、地域の景観美化につながります。



**生物多様性の促進**  
お花畑を創生することで送粉昆虫などの餌資源の場が作られ、様々な生物に対して豊かな環境作りが期待できます。



**養蜂及び農業の振興**  
ミツバチの餌資源が増え、ミツバチの養殖が容易になれば、果樹や果菜類に必要な送粉者としてのミツバチ生産ができ、園芸農業への貢献度も大きくなります。

# 山梨県甲府市相川地区の事例

2015年秋に、玉川大学農学部の中村純教授、山梨県甲府市の養蜂家、種苗の販売を手がける雪印種苗株式会社、農薬や種子の販売を手がけるシンジェンタジャパン株式会社で、『耕作放棄地のお花畑化プロジェクト推進協議会』を設立し、協力機関に甲府市農業委員会、山梨県養蜂協会、JA 甲府市を加え活動が始まりました。

初年度には約1haの農地に播種作業を行い、農地は甲府市農地銀行システムを利用し、甲府市農業委員会事務局および地域の農業委員と農地銀行推進委員の方の協力を得て貸与して頂きました(※1)。

確保した農地は、除草作業、耕起・整地作業、播種作業、覆土・鎮圧作業の順で作業を行います(※2)。選択する植物は緑肥植物で、クリムソクローバーなどのクローバー類の他、ハゼリソウ、シロガラシを春開花の植物、ヒマワリを夏開花の植物としました。初年度春(2016年5月)では、約70%の畑をお花畑にすることができました。

花期終了次第、すき込み作業を行い、次の播種に備えます。春季・夏季の2回花期を作るように圃場の準備を行います。(※3)。

2016年には、株式会社早野組を始めとする早野グループ8社が協賛企業に加わって頂き、さらなる発展と成果を目標に今後も継続して活動していく予定です。

※2



1 除草作業: ハンマーナイフモアなどの草刈り機を利用。  
2 耕起・整地作業: <作業前> <作業後>



3 播種作業  
4 覆土・鎮圧作業: 播種後、トラクターで覆土をし、鎮圧ローラーを用いて鎮圧します。



5 開花: ヒマワリ「サンマリノ」 クリムソクローバ「くれない」



6 すき込み作業: ハゼリソウ「アンジェリア」 シロクローバ「フィア」

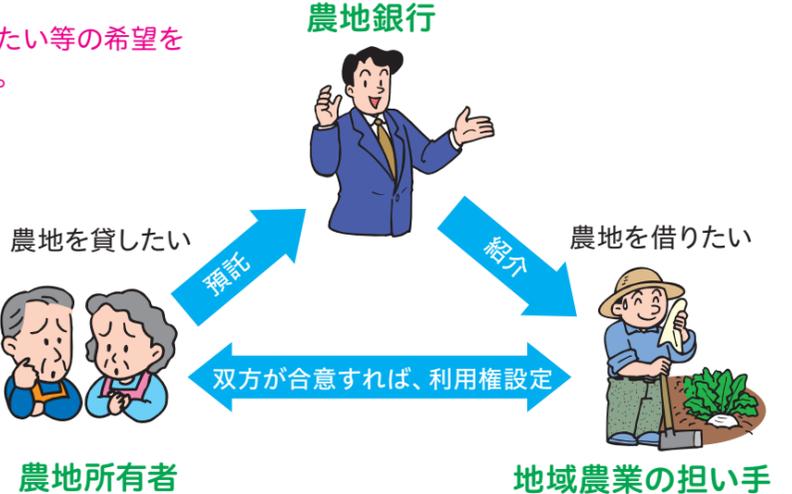
●主要蜜源の流蜜期と開花が被る可能性があります。播種の時期を工夫して開花をずらすことも可能です。また表は甲府市相川地区の作業スケジュールです。各都道府県によって多少スケジュールが変わります。(※3)

# 甲府市農地銀行システムとは ※1

農地を売りたい・貸したい、買いたい・借りたい等の希望を管理し、賃借・売買を斡旋する仲介機関です。

農業経営基盤強化促進法第6条において市町村が定める「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の中の「農業経営基盤強化促進事業」に関する事項の中の「利用権設定等促進事業」について昭和57年から農業委員会が甲府市より事務委任を受け業務を行っています。

農地銀行では、農地の賃借や所有権移転を希望する双方から申出があった場合は、それらの申出を精査・調整して、利用権の設定が行われるように同法第18条第1項に基づき、農用地利用集積計画を作成し、農業委員会の決定を経て、市において告示することにより法的効力が発生する仕組みとなっています。なお、この業務は法令業務である旨、農業委員会等に関する法律第6条第1項第1号で定められています。



●各市町村によって賃借のシステムが異なります。各市町村にお問い合わせをお願いします。(※1)

		作 業	※3
2月	春の花準備／耕起・播種		
3月			
4月	春の花開花		
5月			
6月	夏の花準備／耕起・播種		
7月			
8月	夏の花開花		
9月			
10月	来春の花準備／耕起・播種		

## 耕作放棄地をお花畑に

近年、ミツバチの不調が伝えられ、農薬やダニや病気などが原因であると推測されています。しかし、ミツバチが利用できる植物が減っているということが、全世界的な問題となっています。土地の開発が進んだことで、多様な植物が連続的に開花する土地が減り、畔畦を含む農地周辺がミツバチにとっての資源として大きな比率を占めています。こうした資源は、植物種が限定的で、花粉や花蜜を利用する場合に栄養的に偏りが生じやすくなります。私たちがさまざまな花を植えて、お花畑を作るとは、ミツバチにとっての資源回復につながります。

一方で、耕作放棄地は増え続け日本の農業の課題の1つであり、その耕作放棄地をお花畑化することによって、可食部の少ない花の場合は鳥獣害を受けにくく、イノシシやシカの農地周辺での活動を低減させることもでき、またいかにも荒れた感じのある耕作放棄地と比較した場合、ゴミの投棄などが減り、景観の美化としても期待できます。また、お花畑を維持するためには耕起、播種と数回の除草が主たる作業で、他の農作物を栽培するよりも農地を維持しやすく、耕作放棄地の原野化を防ぐことにもなります。さらにマメ科の緑肥植物などによって、疲弊した土地を回復させることも可能です。草本類を主体とすることで、農地への再転換も容易です。

このような背景を受けて、将来的には、養蜂および農業の活性化を目指した事業の展開を、一種の社会実験として実施したいと思います。具体的には、甲府市相川地区で、耕作放棄地を利用してお花畑を創出し、その効果を養蜂家のミツバチの成育状況や生産状況から評価し、また農地の再生ポテンシャルの維持を目指して行きたいと考えています。そのため、養蜂を行う農家への農地の貸与に限定せず、現在耕作を行っていない農地の保全として、農家の方自身でのお花畑化も含め、多様な発展に期待しています。

玉川大学農学部 中村 純 教授

## お花畑の百花蜜（玉川学園購買部）

2016年5月にプロジェクト始動後初めて採れたハチミツから「たまがわはちみつ お花畑の百花蜜」が誕生しました。プロジェクトで植えた花の蜜を含んだ百花蜜で、透明度が高くすっきりした味が特長です。商品パッケージには、甲府市相川地区に立つプロジェクトの看板に使われたデザインを採用しました。

このハチミツが売場に並ぶ玉川学園購買部キャンパスストアは、玉川大学が監修する国産ハチミツやハチミツを使った加工品を中心として、販売だけでなく大学の取り組みを紹介する役割も担っています。「お花畑の百花蜜」の販売を通じて、関係者の皆さまの今後のプロジェクト推進の一助になればと考えています。



### 【ストア紹介】 キャンパスストア・タマガワ

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 (小田急線玉川学園前駅 北口徒歩1分)  
営業日: 月～土の8時30分～18時30分  
玉川学園購買部のオリジナル商品を販売しています。全国への発送も承っています。  
電話: 042-739-8945 ※受付時間: 平日の9時30分～17時 / FAX: 042-739-8947

ウェブストアからも  
ご注文いただけます。  
<http://tamagawa-cs.jp/>



### お問い合わせ先

シンジェンタ  
プロジェクトページ  
<http://www.syngenta.co.jp>

シンジェンタ 検索



## 耕作放棄地の お花畑化 プロジェクト

耕作放棄地のお花畑化プロジェクト推進協議会  
玉川大学ミツバチ科学研究センター

**syngenta**  
野村養蜂場

**雪印種苗株式会社**

【協賛】  株式会社 早野組  ネット・ヨウ甲斐株式会社  甲府通運株式会社  株式会社ロード  
【協力】 甲府市農業委員会 / 山梨県養蜂協会 / JA甲府市  トヨタホーム山梨株式会社  ハートフルスタッフ 株式会社ハヤノ通商